

號 二 第

表三十四第

行發日一月八年一十和昭

於近 けるに 新 革 資金需要供給の金融緩慢逼 地方税としての住居税 土 ル H フィヒテに於ける國民の E[] 新 1 地 貿易の再檢討 原 テ ッソ 理としての[民有國 商 jν 業 と産業組 0 と政策觀の變 統空 商 附 業及利子 韶 6 蕭 時 鹼 誌主要論題 0 合..... 新 苑 益 究 叢 銯 演 展 開 論 過追に於中立に 父化に就 福 祉 7. : 經濟學博士 經 經法 法 經 經濟學博士 經濟學博士 經濟學博士 法 濟 濟學 學 壁 學 濟 塱 博 賱 博 士士 士: 士 士 士 八木 芳之助 小島 凙 吉 石 出 神 洄 临 芦 Ш Ш H 딞 勇 頲 正 造 即 郎 藏 彦 雄

禁轉

轉載

日印貿易の再檢討

谷 口 吉 彦

| 日次 | 一、主要貿易品の重要性 - 五、協定成立後の日印貿易日次 | 一、日印貿易の發展 - 二、日印貿易の內容 - 三、

日印貿易の相互重要

、日印貿易の發展

就ては、すでに論述した所である。然るにこの日印協定は來年三月末日をもつて滿期となるに さに グ目 き、之に先だつ六ヶ月以前において、 昭 しっ 開 和九年初頭より實施されつゝある日印協定が、 ま明治十年(一八七七)より昭和十年(一九三五)に至る五十九年 印貿易に關する現實の事實を檢討し、 かれんとしつゝある。 現行の日印協定を批判し、 之が繼續または改訂の協議を要し、 之が分析を試みねばならぬ。 貿易政策の轉換上いかなる意義を有するかに 之が改訂を論議 間 の 日印 本論 するに 再度の の目的 貿易について、 先だち、 H 即 は茲にある。 會 告 商 Þ は その 今ま は ŧ

最近で

は年

々五

億圓以上に達してゐる。

五十九年間

の累計は、

輸出三十四億圓、

輸入七十二億圓

最初

は百萬圓にも足らぬ貿易が、

最近十年間でも輸出十八億圓に對し輸入二十四億圓を

に達して、二倍以上の輸入をなしてゐる。

發

展

 \mathcal{O}

跡を顧みる時は、輸出入ともに顯著な膨脹をなし來り、

1) 拙著、貿易統制の研究、第二篇第二章 日印協定の成立、p. 323-337-

超えてゐる。 卽 ち日印 貿易は全體として著しき片貿易であつて、 吾國は入超關係にある。

果とし ŋ, 千萬 総て輸 十九年 慾 は百 氼 7 割 0 第 知 事 13 實 E 髰 過ぎな 圓 萬 0 りうることは、 中例 は て、 迉 とな 減 圓 入 入 超 Ħ 退し 協定の (\mathcal{I}) 程 超 關 外 可 過で FD カ> つ 度 -[的 13 進 -0 係 協 來 b, トに たが、 は日 3 あ 定 b 艓 入 0) 超が Ź. 四 の 均 代に入つては る 年 印 改訂 あ 衡 最 日 印貿易 世界戦 る昭 併しながら等 に過ぎな 貿易を一 輸 1= 近では之を自然に 近づ 歐 入 に當つてもまた考慮 和 13 洲 į, は 九年以後は、八割乃至九割の比率を示す入超である。 爭 濧 大戦後に 田超に (, τ 前後 貫する傾 終始一貫して入超では す は 3 輸 即ち明治十・十一年と昭和七・八年これである。 Û 3 より三、 は ζ 轉することとなった。 出 る が、 放 年 輸入超過でもその 向であつて、 0) 任 比 々二億乃至 すべ せば却 四 桽 併 割 Ď, し き要件 傠 とな つて出 最 ほ 第一表に示さるゝ如 5 初 四 依 あ るが、 億 で 然 0 あ 超 明 圓 内容には相 眧 ع そ の し 和 治 **3**。 を示 の て吾國 年 入 併 年 超とな すべ 結果として 代に入つて 間 しその程度 12 違があ きて **の** は 極 þ ス ζ, 超を續 あ め る が. は過 E は五 る。 τ 最 之に反するの 削 低 近 肠定 莝 絕 去五 で け その 卽ち 貿 六 對 っ 0 は 舅 割 額 -0) 減 > 之に 成立 とな 割 他 あ 退 統 九 7 乃 は 制 年 の 間 1 ا ا ا 至二 τ 最 年 は 0) 15 數 初 五 結 は

戦 は一 然らば斯 般に 後より今日 は 輸 ζ 入 0 の減 如き まで大體 入超 退に よるよりも、 傾 に三億圓程度を維持して變化なきに 向 の變化は 何故に惹さおこされたか、 寧ろ主として輸出 0 進出によるもの 對し、 第 輸出は 表によりて 當 である。 時 Ø 明 卽 な 億. 圓 ち る 如 輸 程 度か 入は 之 大

日印貿易の再検討

第四十三卷 二〇九 第二號 五

年次	輸出	輸入	差	~—~	輸入を 100と する輸	年次	輸出	輸入	差	額	輸入を 100と する輸 出
明 治10	予刊 332	于四 190	-+-	于吗 142	出 174.7	40	手所 13038	千円 74593	_	手 項 6150 5	%
7百 11	2455	819	l .	1636	1		13631	49328		35697	1
12	216			1375			14425	65157		50732	
13	123		1	1627			18712	106361		87649	ı
14	126	_		2086	į i		20316	99695	Į.	79379	i i
15	362		il	1944	15.7	大 エ 1	23648	134741		111093	17.5
16	412		ł	2043		11.	29873	173173			
17	536	l	ļ	1814			26048	160324	1		
18	493			2905			42202				1
19	649			2912		[71617	179464			1
20	453	5291	_	4838	8.6	6	101364	223941	 ;	122577	45.3
21	457	Ï	_	7232		1	202522	268185			
22	1341	1	_	5992			116878	319477	1		1
23	590		-	3910	6.6	9	192249	394930	-:	202681	1 1
24	987	5614		4627	17.6	10	84503	210365	<u> </u>	125862	40.2
25	1422	7662	:	6240	18.6	11	97203	254088		156885	38.3
26	2471	8679	-	6208	28.5	12	99619	305718	-:	206099	32.6
2 7	3688	10560		6872	34.7	13	185373	387791	-:	252418	34.9
28	4359	12001	_	7642	36.3	14	173413	573563		400150	30.2
29	4537	22517	-	17980	20.1	昭 1 和	1 55951	39 1 136	-:	235185	39.7
30	5563	29775	-	24212	18.7		167580	270592	:	103012	61.9
31	6134	40764	- ;	34630	15.0	3	146006	285467	_ ;	139461	51.1
32	6062	43883	-	37821	13.8	4	198056	288119	-	90063	68.7
3 3	8704	23516	_	14812	37.0	5	129262	180424		51162	71.7
34	9657	42779	- :	33122	22.6	6	110367	133165	-	22798	82.9
35	5067	49802	<u> </u>	44235	10.3	7	192491	116865	+	75626	164.7
36	8086	69894	-	61 80 8	11.6	8	205154	204737	+-	417	100.2
37	9404	68011	-	58607	13.8	9	238220	289671	-	51451	82.2
38	7997	90226	- :	82229	8.8	10	275687	305646	-	30009	90.2
3 9	10351	60315	<u> </u>	49964		總計	3398442		ľ		1 B
			ļ			最 近 十年計	1818724	2465822	-6	347098	73.8

進の自然的傾向にある。

然らば日印間の貿易は如何なる内容より成るか、 いま昭和元年より十年に至る最近十年間の日

		第	=	E	홋	領	印度	より	Ø	主要	輸入	1 Fi		
		棉	花	鐵	類		頁 <u>其</u> 直物 能	鉛	ť	鐀	5	類	₽	類
昭和		327	手円 520		∓円 63 4	3	チ 円 735	2 9	∓円 78	न	- Pg 2	手門 503	1	手円 925
["	2	202	281	11 (040	3	207	9	92	4.	58 2	334	2	084
	3	232	266	12	929	3	888	5	45		56 2	282	3	530
	4	231	108	16	949	4	848	10	25		8 2	541	2	454
	5	147	688	7	666	2	968	1 2	79	4	18 1	965	1	336
	6	113	262	3	626	1	954	11	31	10	08 1	761		811
	7	91	746	3 (027	3	669	18	66	110	07 1	483	1	300
Ì	8	168	796	14	654	5	400	2 0	11	16	1.2	956	1	434
	9	252	434	12	053	4	883	3 ()48	2 3	55 2	762	1	370
	10	25 9	036	17 8	587	4	654	4 6	34	3 63	36 . 2	518	2	294
		生ゴ	ム 米	. 及粉	採原	—— 油月 米	月	由糟	Į	支類	, E-1	openit	八	P輸 こ對 る比
昭和	1	10 8	39:15	手 5 7 98	5	₹ 61	[P] .3	手用 3 4 34		千四 123	37 9	平 リ 129	-	96.9
"		11 60	00 20	0 36	6	95	9 2	2 451	H	54	257	826	•	95.3
	3	6 5	78: 5	2 040	6 8	3 20	8 8	987	·	77	27 1	392		95.1
	4	8 79	91	;	3 2	98	17 2	2 108	3	74	272	896	:	97.3
	5	3 78	56	_	-	75	4	809		11	16 8	651	•	93.5
	6	34	43	-	-	58	2	789		7	124	374	•	3.4
	7	29	93:	289	2	78	31 2	048	3	97	107	704	•	92.2
	8	30	64	***	-	2 9	9]	184	Į	284	197	994		96.7
	9	47	78	32	7	7	8 1	032		232	28 i	052	•	7.0
	10	18	37 [.]	200	0	8	1	822		462	296	111		96.9

第四十三卷 = 第二號

五九

日印貿易の再檢討

こうしいとうないとうないとうない

印貿易につき、 先づ吾 國 ^ の主要輸入品を見るに第二表 の 如くであ

著しく集 11,00 纖 Ţ をもつて八割 5 1. 維 入全體として は 最近 分程 中 第 は 的であつて、唯一商品にて八割五分、二商品にて九割、十二商品にて九割五 恢復 度で 五分 装 は前 所揭 あ 内外を占める。 して約三億圓となつてゐ ź. 0) 0 -----その 第 表に示さるゝ加く、 他に鉛・鑛・革 にて對 之に次ぐ鐵類 ξĎ 輸出額 る。 類以下多數 は僅 その内容は第二 十年前 の九割五 かに五分程度であり、 の商品を包含するが、 0 分程度を占める。 約 DΠ 表に 億圓 より かっ r₅ T 第三 明 時 要! す その 6 激 位 減 カ> な るに野印 金 ற し 脉 T 額 3 は 類 如 約 極 一分を占 其他 めて僅 億. 輸 植 棉 圓 ス (d: 物 花 ع

次 に吾 國 から即 度 の 輸 前 빏 15 つ Ļ٦ て同様に 主要商品に つき第三表を作 成す る。

る狀

態であ

性は、 最近 製品 況期 0 て明らか 萷 印輸 ·硝子 店 Ŀ 42 割五 は この十年間に於て次第に增進しつ 12 な つ 出 多少減退し 製品 る如 ļ 分を占めて 全體とし T ę, < 陶 揭出 たが、 ては前 磁器 綿 ある。 織物 せる諸商 ・鐵製品等々、 最近 の第 は約三割、 即ち對印 Ţ は躍進 表に 밆 15 輸出は 絹 示 つ さる 極 人絹 ゝある。 U して三億圓程度に達し τ め ŧ, 輸 織 て多種類にわたり、第十表に掲出する十八商 > 物 如 入に比し著しく 即ち所掲十八商品にて十年前には九割を占めた 輸 は二 ζ, 出 割弱、 は遙 十年 前の かに 綿絲 低率 てゐ 分散的で ---億五千萬 は で る。 あ 割弱 ર્ક ある。 Z を占 の内 圓 の 程 卽ち主要な一、二 め 容は み 度 ならずこの分散 カ> 以 下 第三 5 麦 中 X 品にて y 間 <u>{</u>ت P より の不 ス

	綿織物	絹人絹 織 物	綿絲	メリヤ ス製品	硝子 製品	陶磁器	鐵製品	眞鍮	毛織物	機械及部分品
昭 1	_{手円} 70 3 46	手円 11 985	28 086	₹rq 8 878	3 5 15	手刊 2 933	季円 2 351	手四 2 337	手四 1 706	手四 276
2	85 781	15 8 4 5	20 040	8 449	3 607	2 525	2 232	2 352	1 199	349
3	70 185	17 073	9 181	10 641	3 834	2 456	2 498	2 683	153	484
4	109 138	24 717	13 448	9 928	4 035	2 558	2 304	2 515	375	581
5	61 216	16 781	6 575	7 948	2 888	1 867	1 712	1 858	188	728
6	49 866	$21\ 524$	5 592	3 901	2 23 9	1 391	1 762	1 150	63	470
7	80 653	32 956	14 343	6 698	4 106	3 463	3 322	2 989	591	900
8	71 432	32 912	7 605	9 628	5 506	3 965	5 151	3 885	1 647	2 104
9	66 813	$42\ 508$	11 111	8 349	5 47 3	3 20 0	4 984	4 919	8 219	2 272
10	85 180	40 528	20 093	7 509	6 226	3 529	5 46 5	5 505	4 920	3 070
				<u> </u>			, , , , , , , , , , , , , , , , , , , 			Transport Co.
	身邊粧	人絹絲	翫具	生絲	鐵	木材	樟腦	帽子	計	對印輸 出する比 率
	j j	人絹絲 ^{手円}	翫具 デ四 993	<u></u> ≠¤		木材 ギ門 3 646	樟腦 ^{手門} 1 432	帽子 ^{千円} 476	計 手四 141 245	出に對する比率
	飾用品 +円		宇四	<u></u> ≠¤		≠四 3 646	丰四	∓ ¤	手円	出に對する比率 90.6
和	飾用品 ^{ギ門} 2 285		∓[q - 993	<u></u> ≠¤	=== 1	手四 3 646 2 766	手門 1 432	千円 476	手四 141 245	出に對する比率 90.6
和 2	飾用品 2 285 2 451		∓гч 993 997	<u></u> ≠¤	== n	手四 3 646 2 766 3 072	手門 1 432 1 169	手四 476 62 8	季四 141 245 150 393	出に對する比率 90.6 89.7 88.0
和 ¹ 2 3	飾用品2 2852 4512 813		≠rq 993 997 1 277	<u></u> ≠¤	== r 3 6	3 646 2 766 3 072 3 329	1 432 1 169 1 448	手四 476 628 634	手四 141 245 150 393 128 438	出に對する比率 90.6 89.7 88.0 90.8
和 2 2 3 4	節用品2 2852 4512 8133 054		#I9 993 997 1 277 1 413	<u></u> ≠¤	3 6 5	3 646 2 766 3 072 3 329	1 432 1 169 1 448 1 748	平四 476 628 634 628	平四 141 245 150 393 128 438 179 826	出に對する比率 90.6 89.7 88.0 90.8 83.8
和 2 2 3 4 5	節用品2 2852 4512 8133 0541 695		#I9 993 997 1 277 1 413 1 069	<u></u> ≠¤	3 6 5	3 646 2 766 3 072 3 329 2 518	1 432 1 169 1 448 1 748 685	手内 476 628 634 628 506	平四 141 245 150 393 128 438 179 826 108 248	出に当 する比率 90.6 89.7 88.0 90.8 83.8 84.0
和 2 3 4 5	節用品2 2852 4512 8133 0541 6951 142		993 997 1 277 1 413 1 069 711 1 465	<u></u> ≠¤	3 6 5 14 21	3 646 2 766 3 072 3 329 2 518 1 762	1 432 1 169 1 448 1 748 685 616	年四 476 628 634 628 506 497	141 245 150 393 128 438 179 826 108 248 92 707	出する比率 90.6 89.7 88.0 90.8 83.8 84.0 81.7
和 2 3 4 5 6	節用品2 2852 4512 8133 0541 6951 1422 070	手 四	993 997 1 277 1 413 1 069 711 1 465	千円	3 6 5 14 21 251	3 646 2 766 3 072 3 329 2 518 1 762 1 529	1 432 1 169 1 448 1 748 685 616 972	年四 476 628 634 628 506 497 898	141 245 150 393 128 438 179 826 108 248 92 707 157 306	出する比率 90.6 89.7 88.0 90.8 83.8 84.0 81.7

に反し、 **ものが、** 輸出は綿織物以下多數の商品に分散されてゐるのが著しき特徴である。 最近では七割五分に減退してゐるからである。 要するに輸入は殆んど棉花に集中される

三、 日印貿易の相互重要

輸出 比率 は減退傾向に 比率を見るに、 位を占めるかを見るために第四表を作成する。之について先づ吾國の對印輸出 て検討することが出來る。第一に、吾國におけ 吾國にとつての對印貿易の重要と、 12 は お 十年前 いては約 あるといふことが出來る。 十年前の の 割、 六% 輸入に 七一八%から最近の一〇一一一%內外に及 から最近の一二%に減退してゐる。 おいては一割二分を占めるに過ぎず、 印度にとつての對日貿易の重要とは、種々なる意味にお る對印貿易は、全體として吾國貿易上如 即ち吾國 んでる 且つ輸出は增進傾 の貿易に る。 然 の總輸出に對する おける對 るに對印 印質 何な 向 輸 (易は 輸入 る地 ス

の

表 日本における對印貿易の地

111-00	1711六7100	元人、二九	九· ⊟	二二門六六八	一九、〇五六	一九二九年
1⊪-00	二、一九六、三一四	二六至、四六七	0 1 8-4	一、九七一、九玉玉]医K 700K	一九二八年
	二、二七、二至	二七0、五九二	八四	一、九九二、三一七	一次七、五人〇	一九二七年
一元・豊	二、三七七、四八四	元一、三六	七-空	11、15 10 11	一至、尘平	一九二六年
の% 對印輸入	輸入總額	英領印度より	ある 当年 の 3 名 当 年 前 出 窓 額 に 当 当 年 前 出	輸出總額	英領印度へ輸出	华

割五分程度であり、

且つ増進的である。

三美	い。国力いい前代	三〇五、六四六	11-011	二、四九九、〇七三	二中五、六三七	一九三五年
三交	17.1人37.401	二六九、六七一	10-粒	三、一七一、九二四	三元、三つ	一九三四年
5.交	一、九一七、二九	4年7月11	11-01	一、八六一、〇四五	二〇元 二月亞	一九三三年
<u>۲-۲</u>	7四三 1 00六	二六、八宝	三·	一、四〇九、九九一	一九二、四九二	一九三二年
10.5	し、二三五、大七二	112718	か・空	一、一段、九八	110,5%	一九三一年
二空	1、五四六、0七0	八〇、四回	へ: 克	一、四六九、八五二	一元、云二	一九三〇年

第五表 印度における對日貿易の地位

	一三四三九二	二八三宝	≒ ;	1 长0图 代字	二八六六七	九三五一三六年 [九
Ē] 吳三 五九	二〇七 九九四		一五二四九		三四四	一九
- -	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1六三 五五一	^	一四六三一四九	三三三	三三一三四年	一九
玉玉		10回 セセス	7.0	1 मिन निर्मा	15九 五10	九三二一三三年	一九
.0-₹		三三 三九七	八九	一五五八八公	三元 四六	三一一三二年	九
介	一大學	[MH 1110	50.	二 110至 九111	1三七 三四九	九三〇一三一年	—· 九
::#¶.a 	三 四の二 野児	二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	Z) ()	三〇八〇天	三	九二九一三〇年	ユ ブL
輸当する 入の数 日	輸入總額	日本より輸入	輸出する	輸出總額	日本へ輸出	- 大	年
入恩預			出恕預				

而して輸出入ともに次第に遞增傾向にある。 一〇%、最近では一三%を占め、 次に印度における業日貿易の地位を見るに 輸入においては十年前に九%、今日では一六%を占めてゐる。 即ち印度における吾國商品の地位は、 第王老に示さると女 輸出において十年前には 輸出入ともに

日印會商準備委員會、日印貿易参考資料に據り算出す。

大四

ぎない。 吾國の重要性の方が稍々大なる點にある。たゞ之は日印貿易全體としての價額關係より見たに過 右の二つの結果を綜合して言ひうることは、 主要商品および商品種類については別に考察せねばならぬ。 吾國における印度の重要性よりも、 印度に おける

因みに參考のため英領印度の貿易を主要相手國別に示せば第六表の如くなる。

第 7表 英領印度の貿易相手國

		___________\	_ <u>_</u>	5	45.1	- - -) OBY	· 5		ŞŪ	H. 17.1.	5	U	1.5	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	1 27	佐・三	宝		+ ₹	<u> </u>) 	除く大
2	<u>-</u>	<u> </u>				7447		₹		<u>-</u>	{ [[<u> </u>	<u> </u>	i 	<u> </u>		i L	<u> </u>		7 - -			2	計
套	五八七 九・二 10四 三五 八・二	ュー		八 八五二 セ・セ 101 1四八 セ・セ 11回	पं-पं	三	101	4-4	全	仌	公主	<u>R</u>	숲	わと 第・四	皂	仌	四六	全	元	三六四 六・七	長四	九	逸	獨
芒	大・七 八一七九 六・四	た。セ	₹0	允	六四四	九七二	 으	た二 だニ	汽		四川 四〇〇 元四	2 00		10-0	0.01014	130	お四八・五	和四		宝宝 か・六 二六	莹莹	0萬1	國米	合北 衆
즿	1次、公三二五・四	宝玉二六・三	臺	売四日・七 三八	王士		- FQ	至二日二		100 H-1-1 400	<u>=</u>	\$000 E	卖	三	<u> </u>	츳	프라니다·이 크고 조차리트·호		蓝	三 <u> </u>	Ξ.	Ę	本	н
型	九三四八・八六八四七八四八・四	ツ へ	친	盏	三四九四九四二二四九四二二二四九十四二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	大宝三四六三	至	次六 二六〇四五・九 五七七 〇五二五〇・〇	0#1	五岩	<u> </u>	콩	突	差	<u> </u>	誓	七二三四五・二 七三二 五七八四五・七	岩岩	슬	四六四六六	四七八	交	國	英 帝
100四	五	「七一一十一十分の一十分の一十分の一十分の一十分の一十分の一十分の一十分の一十分の一	岩型出	五	八六九四六·六 玉三七 四七八四一·〇	平	聖七	哭:	八 八 元 光 光	空尘	三 六%	基盤	四个 支票三·六%	.≡ . <u>0%</u>	九分比	四九七 九九至三一・〇	四十二十二二·四 千智比	干岩北		를 <u>= %</u>	0 公 北	四生	國	英 本
三	平以上三ヶ年	六五. 年	三三	一九	五.四 年	一九三三	 	四三年	九三二	_	均年	三ヶ	平以 上三ヶ 均 年	六五. 年	=	一九	年	九 三三 五四		年	九 三三 四三 年		國	相手
		ス	輸	•	^	度	Eħ						出	11 11	輸	b	ょ	,	度	ED				

即ち印度の入超關係にある。次に英本國に屬領を加へたる英帝國は、輸出において四五・九%、輸 入の四二・一%を占めて支配的である。 たゞ相對的にも絕對的にも輸出よりは輸入が大である。 第六表について印度の貿易先を見るに、最近三ヶ年平均において英本國は輸出の三一・六%、輸

の出 を除 人に よっ 均 衡 超である。 て印度の貿易が に近近 お 17 いて四 ば 吾 威 之に 九・四%を占める。 は首位を占めて輸出 反 對 次 ぐ北 ほゞ如何なる狀態にあるかを知ることが出來 12 獨 |逸に對しては入超を示し、輸出入ともに八%程度 米 合 一衆國 卽ち は輸出の九・四 の一二・七%、 印度の貿易の % 輸 入の 略 輸入の六・四 ζ · 半 額 五四四 は英帝國領土内の貿易に屬する。 %を占め、 る。 %を占め 絕對額 を占めてる るが 絕對 では る。 輸出 的 13 以上に は ス 印度 ほど 之

いままのないないととうないでしていることに、ころいているとのはないとう

四、主要貿易品の重要性

輸出 易品 討することゝする H 品では綿布 即一 は、さきの第二表 一貿易の 相互重要は更に主要貿易品 は約三割を占めてゐる。それ故に茲では輸入棉花と輸出綿 および第三表に示さるゝ如く、 の相互重要についても考へねばならぬ。 わが 輸入品では棉花 布の は約 八割五 相互重要につき檢 Ħ FIJ 一分を占 間 の主

よい。 第 (-ま最 印度棉花 近十 年 に對 間 の FIJ する 度 吾 棉花 國 輸出 の 重要性 「先を第 を見 七表 る 7: 42 示 d) には、 す。 その 輸出先各國の比率を比較す れば

五割を輸入するに 第 七表 によ n ば印度棉 對し、 花 之につぐ英本國は僅 12 對する吾國 の 重 要性 かに一割に過ぎず、 は 極 めて明ら ゕ その であ 他の ર્ક 諸國 即ち吾國 らすべ は τ 剈 棉 割 0 以下 ほど

日印貿易の再検討

第四十三卷

二七

第二號

六五

旧印貿易の再檢討

一表 印度棉花輸出先1)

白	獨	英	E	i		
耳義	逸	本國	4	i .		第七
四一五九九	- H		至心	八千夜	一九五六年	表 印度
소 들	九三	#5 #6	豎·九	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	元元年	棉花輸
九三二七	シ ラ		四 ·三	1 *10	二二 完完 年	出先,
스듬 =-	八三四四四	 ###5 ###5	ji∙0	一 大西〇	上 型 型 年	
55.二 五七	で売	七天	四九	一六公	1 2 2 2 年	
五 三	古六	で云	豐宝	1 0公		
空景	七三	八 <u>一</u> "六	三五		- 元 - 二 - 二 - 三 - 年	-
五 二 三 三 三	九二 0七	# E8	三十三	1 0111	一九 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	
四二四三	四二	の で に こった	天	11 011	一 五 芸 一 年	
<u> </u>	† <u>=</u>	# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	至六	七五九	—— 九九 元二 二九 二九 二九 二九 二十 二十 二十 二十 二十 二十 二十 二十 二十 二十	

中華民國

三元

<u>"</u>=

ここの

三类

宝六

ㅈ 녎

六_三

デ

三 三 元 元 伊

太

利

之景

三書

九是

九릋

七三

찬 높

会表

五三

佛

闟

西

툿 듯

益

玉:0篇

空臺

五三

亭_人

☆☆

五二 九兰

三元

合

計

50 0 次

0.00 0.00 0.00

| 三 | 0 | 元 | 元

| ここの | 一 | 三 | 元 | 元 | 元 | 元

- Maga

0000

其

他

二 宝全

ΞΞ

五全

三章

두 六 소

프

五三

型 去 西班

牙

三

三二

がなった。

一 **元**合

之景

宝玉

三二

工谷

第四十三卷 二一八 第二號 六六

に過ぎない。さきに昭和八年印棉不買を斷行して、印度の棉花市場を混亂せしめ得たのは主とし

てこの事情によるものである。

おける印度棉花の比率を示せば第八表の如くである。 然らば印度棉花は吾國において如何なる重要性を有するか、いま最近十年間吾國の輸入棉花に

第八表 印度棉花の吾國における地位

E		36 11 OEX		원 (B) [[1]]	北田大、〇三六	ハニ五年	一力
2		=				:	•
中四	三至四八三	五 七九二 三八三	三三五	当一四年	二十二八四四	三四年	一九
三人	三 四九 二〇一	三 九七七 二八〇	云之	六〇四、八四七	一六八、七九六	乙三三年	一九
=	1二 七四〇 一五六	二 宝元 八四二	<u> </u>	102,488	たー、七四六	Ξ _	一九
	二二类公关	四八0八二三二	兲	元六、二七三	11三、三二	三一年	一九
咒。四	九 老三 一天	및 사기서 민준민	粤六	是六二、〇四七	一四七、六八八	≡ 0	一九
型·六	10 欠 毛	五三六四六	四:三	五七二〇八六	三1710	二九	一九
11-4周	九七五五一七三	四六0三九六	₽	五四九、九四二	是一天	二八年	
烹·o	一二 七九九 八五五	四 九九二 00五		六二四、六三〇	言でえ	二七年	一九
 6%	二 六盟 六九二	五八宝 六二	<u> </u>	七宝、汽车	是记"斯B	二六	一九
輸入の%より	輸入總量	英印より輸入數量	輸入の 第入總額 に對	輸 入 總 額	英印より輸入價額	次	45
重	入數	輸	額	入價	輸		

第八表によりて明らかなる如く、吾國における印度棉花の地位は、最近は價額において三割六

日印貿易の再檢討

第四十三卷 二一九 第二號 六七

額に するは、 數量 お ŗ 印度にとりて極 ても數量においても減退傾向に に於て四割二分を占める。 めて有利な條件であると言ふことが出來る。 MI して恐慌期の減 ある。 この點より見て日印協定が一定棉花 退を別にすれば、この十年間 の輸 0 傾 入を保證 闸 は、 價

第 九 表 綿織物對印輸出の地位

	二 芝豆 10人	英克尔 1:0至	- -	四九六 〇九七	全 100	一九三五年
=	二 五七七 二六五 二		III-X	四二 三	炎 八三	=
=	1 020 三宝	四州 1 代〇州	7.	总人员 二二五	4] 夏明1	
=	11 011 4111	六四四 六八五	岩丸	六七三	公室	
듓	一四三大〇	E03 E11	臺	· 九 =	四九 八六六	≡
=	一卷一个宝		=			≝ O
=	一 七九〇 五六〇		芙蓉	X04 11 11	10名 二	二 九
臺	一四八七八	01년 6년에	元光	. 파파리 ニーヤ	七0 一公	二 八
	1	1		三人一・七六〇	八宝 七八一	二七
96	干污碼	干, 产	天 九%	四六二五四	40 三四六	九二六年
比. 李	斯出激量	英印へ輸出	此。	車前 出: 器: 器:	英印へ輸出	
	出數	輸	額	出價	 - - - 	·

す他の方面への輸出増加のために、 價額の二割七分、 第二に、 吾國の)對印輸: 數量 の三割 田品 r 一分も占めたこともあるが、 代表する綿 相對的には減退して價額の 布 の地位を見るに、第九表に示さるゝ如 最近では絶對的には 一割七分、 數量の二割を占めてゐ 增 加 したる < に拘ら 時は

る。 することは吾國にとつても重要である ま印度における綿布輸入先を示せば第十表の如くである。 何れにせよ英領印度は綿布輸出の重要市場である。從つて日印協定によつてこの市場を確保 然らばこの綿布は印度に おいて如何なる地位を有するか

第十段 印度綿布輸入先

超六四氢	九四十七四	元宝 元章 100·0	0.001	0 001 阿沙 斯杜	<式0 Oij0	一九元 圖六	計	合
	一二五四六九六	后 六 六 元	贸 四六	至三	至八 0八	10九八四	他	英
· 四三次。	天宝	三二	たり、	三八三四八二四八八四八八四八八	新三 四 五	がまた。一つだった。		夹
四九五 七四五	三七 七二	三四元 〇四二	五龙 岩岡	聖·八 聖·八	0·光 hht 0归	表 一九 九六 ・12%六	本	B
一九三六五	一 九 三 五 年	一九三四年	一九三二年	一九三二年	一九三〇 三一年	一九二九二九年		

ぎず、英本國は優位を占めてゐたが、最近ではほゞ伯仲の程度にある。卽ちわが綿布の輸入は印 卽ち印度への輸入綿布は殆んど吾國と英本國とが獨占的であり、 以前には吾國 は三割程度に過

度にとつてもまた重要であることが判る。

つての印度市場は二割程度に過ぎないに對し、印度棉花にとつての吾國市場は五割以上を占める 今日にあつては輸入市場よりも輸出市場がより重要であるといふ點より見れば、わが綿布にと

日印貿易の再検討

第四十三卷 二二一 第二號 六九

から、 ての印度市場はより重要で を占めるに 即 度にとつての 反 綿 布 は 吾 對 國 あ 即 は より重要である。 る。 輸出 の三割を占めるに 併し 過ぎな ながら前述 ţ, カ> 5 の 如 この點 く印 棉 より は對 嵬 目 輸 n ば吾國 出 の 入 割 12 五分

五、協定成立後の日印貿易

ある 九 年 H およ FD 協定 協定の ジナ の質 年の 改 施されてより既 訂 日 に關 ЕD 貿易は、 聯し て檢討を要する問題で 之を協定前 に二ヶ年 43 の貿易 を經過 じつ および協定の あ ンある° 内容と對比して、 いまこの協定の下に 如 何な 行 は る狀態に ti 1-173 和

0 〇五三、五三五俵、第二年度一、六四一、〇二五俵に達 第三年度 となつてゐる。 十萬俵をも遙かに凌駕してゐる。協定前の十ヶ年平均は約百五十萬俵であり、三ヶ年平 一十萬俵であつたから、是等に比較して著しく増加してゐる。 、〇二五俵は、次年 邦文では 第 42 二ヶ年 繰越 丽 すも 間 超過數量 して百五 度に の棉花輸 0 かっ 繰 越さるゝことゝなつてゐる。 **北萬俵を超過する數量卽ち第一年度五五三、五三五俵、** 入狀態を見るに、 再輸出を控除 Ū, 茲に 基準數量百萬俵 した 問 卽ち印度は豫想以上に有利な狀態 題 る純 は 兩 年 輸 度 ス は勿 は の 超 論 割當決定上、 過 棉花 ある。 製量の 第二年度 最 第 大 合計 年 均 數 度二、 量 は 百五 から 約 四

a) 日印貿易参考資料、p. 24-43.

cotton piece-goods year corresponding to such following cotton year. となつてゐる。研究を要する問 the following cotton year for the purpose of determining the allotment of cotton piece-goods for the 文やは the excess shall be added to the quantity of raw cotton exported from India to Japan in 次期棉花年度ニ於テ印度ヨリ日本國に輸出セラル 、棉花數量ニ加ヘラルベシ』となつてゐる。 英

題である。

なり、 卽ち吾國はこの協定後において却つて輸出を減退せしめつゝある。 となつてゐる。 度の再輸出を控除する時は、第一年度四○六、四六九千碼、 第二年度四六○○九四千碼の 純輸出 第二年度五二二、四五二千碼に達し、 しうる筈である。 千二百五十萬碼となるが、最大數量は絕對的に四億碼と協定されてゐるから、 千五百萬碼、これ以上の棉花毎一萬俵につき百五十萬碼の計算にて加算すれば 第二に、 第二年度は同様に計算せば、四億二千百萬碼となるから、これまた極限 右の輸入棉花に對して輸出しうる綿布の數量は、まづ基準棉花百萬俵に對して三億二 然るに再輸出を含めての現實の輸出數量は、 この平均は協定前三ヶ年の平均五億一千萬碼よりも少い。 綿布 而して右の對印輸出量より印 第一年度四六四、八六三千碼、 極限まで の四 ·第一年度四 億碼まで輸出 の輸出と 億八

第三に、輸出 ま協定前三ヶ年平均數量を協定後の現實輸出數量と比較する時は、 綿 布の品種別割當と現實輸出との關係を見る爲めに第十一表を次に揭げ 第一年度には生無地 Ź。 緣

> 2) 3) 前掲書 前掲書

第二號

七

第四十三卷 二二四 第二號 七二

第十一表綿布品種別の野印輸出

	付生地·色物	計 計	包物	晒 (白) 地	緣付生地	生無地		
な く、	には大差な	100	Ei. [24	<i>j</i> /C	=	PS%	割品當種率間	
晒地だけは	く、た	E 00 000	111 1 000	#H 000	月11 000	1人0 000	割高數量上	
同様	晒地	関値へ対	五五二五五二五五二五五二五五二五五二五五二二五二二五二二二二二二二二二二二二二	0114 IX	五一 九八0	「	第1 第一年 第 第 第 第 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	
ソ半減	は 半 滅	英三 器	至	KEI DZ	大七 六四]		第二年度上	
てゐる	てっ	天 完	ナ	mi.	七八三	<u>=</u>	第一年度	
この事	第二年	空奏	一四八三七	24 24 25 25 25 25 25		 壹	第二年度上	
より見	は生無	四次 四次	三麦。	緊急	垩	宝	第一年度純輸出數量	
る時は、	地は増大	恩	1E1 000	Pil Žb	-	11011	第二年度上	
晒地の	し、縁付	#10 OKH	140 154		五二三二三二三二三二三二三二三二三二三二三二三二三二三二三二三二三二三二三二三	一次一次	三ヶ年 年 平 剪 前	
	樣にほゞ半減してゐる。この事實より見る時は、晒地	色物は大差なく、晒地だけは同様にほゞ半減してゐる。この事實より見る時は、晒地地・色物には大差なく、たゞ晒地だけは半減してゐる。第二年度は生無地は增大し、	色物は大差なく、晒地だけは同様にほゞ半減してゐる。この事實より見る時は、晒地地・色物には大差なく、たゞ晒地だけは半減してゐる。第二年度は生無地は增大し、計 100 800 000 86 会 警 署 天 嘉 空 美 80、82 80 88 至	色物は大差なく、晒地だけは同様にほゞ半減してゐる。この事實より見る時は、晒地地・色物には大差なく、たゞ晒地だけは半減してゐる。第二年度は生無地は增大し、計 100 200 000 200 200 200 200 200 200 200	色物は大差なく、晒地だけは同様にほゞ半減してゐる。 第二年度は生無地は増大し、計 100 200 000 200 200 200 200 200 200 200	色物は大差なく、晒地だけは同様にほゞ半減してゐる。この事實より見る時は、晒地地・色物には大差なく、たゞ晒地だけは半減してゐる。第二年度は生無地は增大し、計 100 200 000 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25	色物は大差なく、肺地だけは同様にほど半減してゐる。この事實より見る時は、晒地に、	

量にある。この數量を增加すべきことは、以上に述ぶるが如く種々の點より見て合理的である。 定以上に出てゐる。第二年度では總ての品種において協定數量を超過し、從つて全體にお 六千萬碼の超過となつてゐる。要するに品種別割當において最も問題となる點は、晒地の割當數 比較するに、 第一年度は生無地・緣付生地・色物において協定以内に止まり、晒地にお いてのみ規 いて約

第四に、

日印協定に對する印度側の期待は、

英國商品および自國工業の保護を主としたもので

現實の事實の檢討に止める。(一一七二五)

ક્ 率は、 棉花五 この協定の繼續を希望すべき立場にある。 三億六千萬圓の入超である。幸に他の諸商品の輸出によつてこの入超の一部は補塡し得たけれど 續することは印度經 印度綿布の生産高は、第一年度において著しく増加して約三十四億碼といる未曾有の數字を示 この意味では英國商品に對する消極的の保護作用を否定することは出來ない。次に國內工業卽ち 日英雨 0 あるが、この目的は果して實現されつゝあるか、前揭第十表に示せる如く印度への綿布輸入の比 てゐる。 となつてゐ 保護目的 尙ほ貿易均衡には達してゐない。從つて吾國としては何らかの改訂を加ふることによつて、 第一年度には吾國は三九・六%に減退し、英國は五八・五%に增進してゐるから、 億一千一百萬圓 國の自 卽 ち國內工業保護の目的は積極的に達成されつゝある。 るから、 は達せられた樣であるが、併し第二年度には逆轉して吾國五二・四%、 由競爭に委せられたとせば、吾が商品は恐らく尙ほ著しく進出 茲ではこの目的 一湾の發展より見て望ましき所である。 の輸入に對し、 は達せられてゐない。 綿布輸出は僅かに一億五千一百萬圓に過ぎず、 協定改訂の問題は之を次の機會にゆづり、茲ではたゞ 併しながら今もしこの協定なくして、 之に對する吾國側 從つてこの協定をそのまゝに繼 の事情は、 したであつたらう。 英國四六•四% 二ヶ年間に 英國 兩年 商品 度 0